

第6期科学技術基本計画の策定に当たっての学術分科会意見（ポイント）

—科学技術イノベーション政策における学術研究の意義及び振興の方向性—

参考資料3-1
科学技術・学術審議会
学術分科会（第75回）
令和元年10月8日

ポイント

- 学術振興を、単に付加的な位置付けに留めるのではなく、科学技術イノベーション政策を支える柱の一つとして位置付けるべき。
- 有為な研究者人材の育成と多様で質の高い研究成果の創出のため、政府の諸施策の推進を通じ、研究者の挑戦的な意欲を喚起する環境を醸成すべき。

I

科学技術イノベーション政策における学術研究の意義 <未来社会における学術研究の意義>

知識集約型社会への
パラダイムシフト

将来の不確実性

未来社会の
形成に向けて
求められるもの

新たな知の開拓

既存の常識や慣習にとらわれず、新たな事実の発見や既存事実の認識の転換といった知的活動を通じた新たな知の開拓

未来を構想する力の涵養

学術研究と不可分な知的思考様式の教授普及を通じた社会全体の課題解決力や知的創造力の向上

知的多様性の確保

幅広い研究者による多様な問題意識を基にして研究課題を設定するという学術研究のアプローチを通じた知的多様性の拡大

これらの実現においては、研究者一人一人の動機に基づいて行われる学術研究が重要な役割を担う。

また、科学技術イノベーションの力を活用して人間中心の社会を形作る際には、議論を先導するのは人文・社会科学の学術的蓄積であって、人文・社会科学から自然科学まで、分野を超えて協働することが今後より求められる。

科学技術イノベーションを支える 二つの研究支援のアプローチ

学術振興アプローチ

内発的な動機に基づく独創的な研究課題設定

多様な研究成果の創出

未知の課題に挑戦するマインドを持った研究人材の育成

イノベーション

シーズ

人材

ミッションオリエンテッドなアプローチ
明確な目標を定め、効率的に目標達成に向かう

有用なシーズに対する集中的な投資を行い、成果の迅速な最大化を図る

科学技術イノベーションの持続的な創出を実現するためには、これら二つのいずれも欠かすことができず、第6期科学技術基本計画においては、学術研究が科学技術イノベーション政策を支える柱の一つとして位置づけられる必要がある。

II

2030年の世界に向けた学術研究推進の方向性 <研究者の志を原動力とする学術研究の推進>

研究課題の設定において研究者一人一人の問題意識を尊重することで、研究推進の原動力とし、研究者の挑戦的な意欲を喚起する環境を醸成することが必要。政府においては、こうした環境の醸成を政策実現のために不可欠な理念として設定し、以下の取組の方向性に最大限尽力していくことが求められる。

研究者の志が最大限発揮される環境

- ・研究者としての人生が挑戦に値すると信じることができる研究環境の整備
- ・意欲と能力を引き出すことができる適切な処遇の確保
- ・将来への不安を軽減するための研究職以外の職も含めたキャリアパスの確保

財政基盤の確立

- ・基盤的経費の確保等を通じた、教育研究活動の基盤となる大学の裁量により使うことができる経費の拡大
- ・競争的資金の改善・充実を通じた多様性の確保やプロジェクト研究への専従義務の緩和などの研究者の研究環境の改善

基盤的インフラの充実

- ・研究活動を継続的に行う場の提供や、組織の枠を超えた、質の高い研究リソースを提供する研究基盤である共同利用・共同研究体制の強化*
*老朽化や運転資金不足による機能の抑制は我が国にとって大きな損失
- ・ICT化が急速に進化した現代における情報システム環境・基盤インフラである学術情報基盤の質的充実